

漁獲量維持増大を目指し サクラマス幼魚（スマルト）1万尾、稚魚6万尾放流

7月1日（金）、村水産振興推進協議会（越善靖夫会長）主催により、老部川内水面保護水域において、サクラマス幼魚・稚魚放流式が行われ、村内漁業協同組合長、むつ水産事務所、東京・東北電力等関係者約50名の手により、平成21年8月中旬から10月上旬に老部川に遡上した親魚から採卵し、ふ化後約1年7ヶ月間、老部川内水面ふ化場で飼育した、平均尾叉長15.0cm、体重28.0gの幼魚（スマルト）1万尾と、ふ化後約7ヶ月間飼育した平均尾叉長6.3cm、体重3.5gの稚魚6万尾が放流されました。また、稚魚はこれから小老部川と野牛川に各2万尾の放流を予定しており、計10万尾を放流する予定です。

今年で14回目となるこの放流事業は、村と村内各漁協がサクラマスの稚魚を買い上げ、内水面漁業経営の安定とサクラマス漁獲量の維持増大を目的として行っている事業です。

村としてもサクラマスは「つくり育てる漁業」の重要かつ貴重な魚種として大いに期待をしているところであり、この事業を今後も継続していき、さらなる資源増を図っていきたいと考えています。



御神酒を川へ注ぐ越善村長



関係者による放流

子ども達の進学支援に役立ててください！ ～トントウビレッジ チャリティ益金寄附～



越善村長に目録を手渡す鈴木館長（左）

6月15日（水）、東通原子力発電所PR館『トントウビレッジ』の鈴木寿敏館長が役場庁舎を訪れ、子ども達の進学支援に役立ててくださいと、金55万5千円を東通村へ寄附されました。

この寄附は、各種イベントの際の食べ物コーナーや体験コーナーなど模擬店の売上げ金が充てられたもので、平成13年から毎年続けられており、今回で8回目となりました。

ご寄附いただいたご浄財は『東通村育英奨学基金』として活用させていただきます。

ありがとうございました。